

地震による東京の被害想定

首都直下等を震源とする地震が発生した場合、都内では次のような**甚大な被害**が想定されます。

「首都直下地震等による東京の被害想定～」
(平成 24 年 4 月) 東京都防災ホームページより

想定震源 (マグニチュード)	【首都直下】 東京湾北部地震 (M7. 3)	【首都直下】 多摩直下地震 (M7. 3)	【海溝型】 元禄型関東地震 (M8. 2)	【活断層での地震】 立川断層帯地震 (M7. 4)
死者	約 9,700 人	約 4,700 人	約 5,900 人	約 2,600 人
負傷者	約 147,600 人	約 101,100 人	約 108,300 人	約 31,700 人
火災被害	約 188,100 棟	約 63,800 棟	約 108,100 棟	約 50,300 棟

※想定は以下の条件です。

- 時期・時刻：冬の夕方 18 時
- 風速：8 m/秒（樹木が揺れはじめ、池や沼の水面に波頭が立つ状態）

少人数でも・近所で・短い時間でできる！

訓練に参加して**スタンドパイプ**を覚えてみませんか？

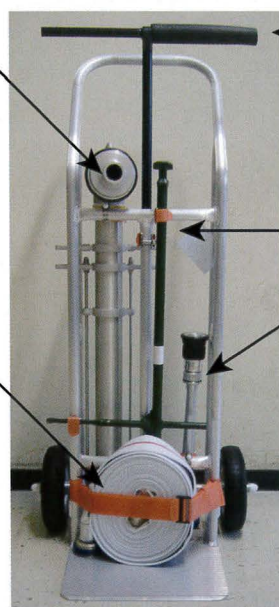
同時に多発する火災には、消防機関だけでなく、地域の方々による**初期消火活動**が必要です。

資器材名	特 徴
スタンドパイプ	○道路上にある消火栓につなぎ放水できる ○町会や自治会、防災倉庫に配置され、 軽量で操作も簡単

スタンドパイプ ← スピンドルドライバー

消火栓鍵
管そう
(筒先)

消火用ホース
(2 本)



東京消防庁では、自分たちが住むまちでの「まちかど防災訓練」を推進しています。
ホームページでも映像を載せていますのでご覧ください。

保存版 スタンドパイプの使い方

①消火栓をあける



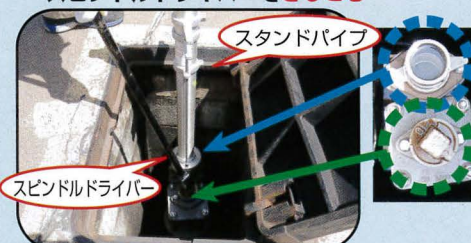
周囲の安全を確認し、腰をしっかり落とす

④ホースをつなぐ



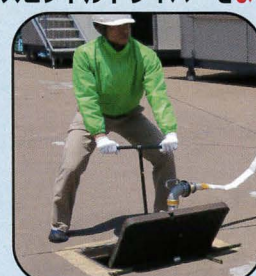
「カチッ」と音がするまでしっかり差し込む

②スタンドパイプ スピンドルドライバーをさしこむ



結合が不十分だと放水中に外れ危険なため、
確実に接続する

⑤スピンドルドライバーをまわす



放水者の合図を確認したら、ゆっくり回す

③ホースをのばす



ホースはまっすぐ延長する

⑥水をだす



放水の反動力があるため、しっかり姿勢を
保持する

地域の防災訓練に出たくても、**予定があわない**...どうすればいいの？

防災館で地震や火災などへの対処法が体験できます！

(地震体験、煙体験、消火訓練、通報訓練、応急手当、防災シアター等)

◆池袋防災館 豊島区西池袋 2-3 7-8 TEL03-3590-6565

◆本所防災館 墨田区横川 4-6-6 TEL03-3621-0119

◆立川防災館 立川市泉町 1 1 5 6-1 TEL042-521-1119

※予約は不要ですが、混雑している場合がありますので事前に電話確認してからご来館ください。

東京消防庁ホームページ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp>



東京消防 検索

モバイルホームページへは、
左の二次元コードからも
アクセスできます。



クリック！

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



地震への備え、万全ですか？

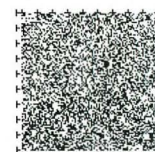
いま大地震が発生したら...

あなたの住むまち東京で、



東京消防庁

平成 26 年 8 月 発行



地震に対する10の備え(抜粋)

身の安全の備え

家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう

- ・けがをしたり、避難に支障がないように家具を配置しておく。
- ・家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておく。

けがの防止対策をしておこう

- ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
- ・停電に備えて懐中電灯をすぐ使える場所に置いておく。

家屋や塀の強度を確認しておこう

- ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
- ・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないよう補強しておく。

初動対応の備え

消火の備えをしておこう

- ・火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き(溺れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする)をしておく。

火災発生の早期発見と防止対策をしておこう

- ・火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておく。
- ・普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておく。

非常用品を備えておこう

- ・非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
- ・車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく。

確かな行動の備え

家族で話し合っておこう

- ・外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所を決めておく。
- ・家族で避難場所や避難経路を確認しておく。

地域の危険性を把握しておこう

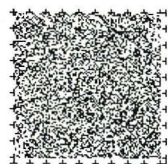
- ・自治体の防災マップ等で、自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
- ・自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作っておく。

防災知識を身につけておこう

- ・新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく。
- ・消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。

防災行動力を高めておこう

- ・日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身に付けておく。



※このリーフレットは、目の不自由な方などへ情報提供できるよう視覚障害者用音声コードとコード位置認識のための切り込みを入れています。専用読み取り機により文章内容が読み上げられます。

地震 その時 10のポイント

地震時の行動

地震だ！ まず身の安全

- ・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
- ・丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

【高層階(概ね10階以上)での注意点】

- ・高層階では、揺れが数分続くことがある。
- ・大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



地震直後の行動

落ちついて火の元確認 初期消火

- ・火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- ・出火した時は、落ちついて消火する。



あわてた行動 けがのもと

- ・屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- ・瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



窓や戸を開け 出口を確保

揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



門や塀には近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

火災や津波 確かな避難

- ・地域で大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
- ・沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



正しい情報 確かな行動

ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



協力し合って 救出・救護

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



避難の前に 安全確認 電気・ガス

避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



地震のときの集合場所や連絡手段をあらかじめ話し合っておこう。



地震だ！
まず身の安全

していますか？
家具類の転倒・落下・移動防止対策

対策の方法は、東京消防庁ホームページに掲載されている「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」を参考にしてください。

東京消防 検索

東京消防庁

